

## 令和4年度第2回川口市廃棄物対策審議会議事録

- 1 開催日時 令和4年11月21日（月）午後2時00分から午後2時40分まで
- 2 開催場所 リサイクルプラザ4階 研修室
- 3 出席者 (1) 川口市廃棄物対策審議会委員：12人  
学識経験者：河井 一広  
市議会議員：稲川 和成（会長）、関 由紀夫  
市民：野本 悌司、吉野 修弘、笹原 文雄、  
牧野 真知子、井出 留美、吉田 奈緒美  
事業者：林 嘉市（副会長）、山本 有祐、町田 治子  
  
(2) 事務局：17人  
二味環境総務課長、池田自然保護対策室長、白石環境保全課長、  
佐藤資源循環課長、笠井産業廃棄物対策課長  
宮下環境施設課長、須藤新戸塚環境センター建設室長  
石川収集業務課長、平山朝日環境センター所長  
大竹リサイクルプラザ所長、本澤鳩ヶ谷衛生センター所長  
資源循環課皆川係長  
資源循環課小野補佐、飯田主査、金森主査、鈴木主査、小田野主事
- 4 傍聴者 0人 傍聴申込受付期間：令和4年11月11日（金）から  
令和4年11月18日（金）まで 定員6人
- 5 議題 (1) 路上喫煙防止について  
(2) 令和3年度 ごみ処理実績について  
(3) その他

### 6 議事録

令和4年度第2回川口市廃棄物対策審議会
1 開 会
2 挨拶
会長挨拶
議事録確認者選任 笹原委員が指名される。

<b>3 議題（1）路上喫煙防止について</b>	
事務局から、資料に基づき説明。	
委員	戸塚安行駅周辺について、禁止区域指定及び喫煙所設置をおこなえば、川口市内の駅すべてを指定したということか。
事務局	来年度で市内すべての駅周辺で禁止地区指定と喫煙所設置をすることとなる。
委員	禁止区域が増えることでパトロールの追加人員が必要となる。費用は市が負担するのか。
事務局	市の負担となるが、令和5年度に喫煙所の設置が完了するため、予算としては大きく変動することはない。
委員	喫煙に対する関心が高まっているが、川口市では分煙対策として市内すべての駅を禁止地区として対策することについては賛同できる。
委員	今後の川口市の路上分煙対策の予定について教えてほしい。
事務局	来年度で喫煙所設置は事業を完了するが、追加で市民等の要望があった場合は対策を講じる必要があると考えている。
委員	昨年度の審議会では啓発の必要性をあげていたが、路上喫煙禁止地区ではどのような啓発をしているのか。
事務局	路面シールの貼り付けやポスター掲示、また、毎年12月に開催している駅頭キャンペーンでは禁止地区に指定した駅周辺で職員がティッシュ配布をおこなっている。
委員	広報紙にも啓発をおこなうべきではないか。
事務局	市ホームページや広報かわぐちにも掲載して周知をおこなう予定である。
<b>議題（2）令和3年度 ごみ処理実績について</b>	
事務職から、資料に基づき説明。	
委員	今回のごみ処理実績の未達成のものは今後、どのような対策を講じるのか。
事務局	ごみの減量を図るため更なる啓発に力をいれていきたい。
委員	集団資源回収の実績が今年度減少している理由は何か。

事務局	市民のごみ分別の意識が薄れてきているのが主な理由の一つである。今後も周知、啓発をおこなっていききたい。
委員	自身は町会に所属しているため集団資源回収の新聞の量が減少しているということは実感している。近年では在宅勤務が主流となり段ボールの量が増えているような気がする。今回の実績では事業系ごみが昨年度と差が感じられなかったため、今後は事業系ごみも対策するべきではないか。
事務局	新聞については電子化が主流になっていることから減少傾向であることが想定される。在宅勤務による段ボールが増加しているが、再資源化によってごみとしては減量している。
委員	一般ごみを減らすには食品ロスに関する対策が必要と考えている。広報かわぐち、PRESS 5 3 0 といった広報紙以外の啓発方法はどのようなことをおこなっているのか。
事務局	現在、市ホームページや広報かわぐち、PRESS 5 3 0 で啓発をおこなっている。1 2 月にはフードドライブをおこなう予定である。
委員	議員と合同で平成 2 7 年からフードドライブを自ら実施している。川口市も年に 1 回の実施ではなく定期的実施することでより食品ロスを削減することができるのではないかと。
事務局	意見を参考にしながら、市ホームページや広報かわぐち、PRESS 5 3 0 による啓発活動を強化していく。なお、今年度は新たな取組みとして、企業との連携により朝日環境センターでフードドライブも開催している。
委員	国や他市区町村でも食品ロスの削減に力を入れている。川口市は令和元年度からフードドライブをおこなっているが、もっと活動を強化していくべきではないだろうか。
事務局	今後は家庭ごみの減量化と併せ食品ロスの削減の周知、啓発に努めて参りたい。
委員	審議会の委員として、報告を受けるだけでなく、自身も職員とともにフードドライブといった活動に参加したい。 例えば、フードドライブの箱を公民館に設置し、2、3ヶ月に一回程度回収するような活動をしてほしい。
委員	議会でも食品ロスに関して議題とすることで予算化ができるのではないだろうか。今回の予算要求は具体的にどのようにおこなったのか。

	また、焼却処理のごみの量が減少しているにもかかわらず、焼却残さが増加している理由は何か。
事務局	戸塚環境センターの焼却残さは朝日環境センターへ搬入し、処理をおこなうが、焼却残さの処理に必要な施設の故障により一時的に受け入れできなかったことがあげられる。また、ごみの焼却を持続させるため目詰まりの原因となる焼却残さの量を前年度よりも減らして運転したことによるものである。
事務局	予算については、以前、食品ロスの実態調査について要求をしたが、配分されなかった。
委員	ごみ量の削減という目的ではなく、生活に困っている人への奉仕活動ということで食品ロスの削減活動に対するボランティアを募ったり、飲食関係会社に呼びかけをしてもよいのではないか。
議長	今後の食品ロスへの活動については、環境部全体として検討していただきたい。
委員	今回の実績報告では一人当たりのごみの排出量は減っているが、来年度はさらに一人当たりのごみの排出量削減目標を設定している。これを達成するには、今後も新たに施策を検討する必要があると考えるが、具体的にどのような対策を検討しているのか。今の対策だけでは、市民がごみの処理実績を見ることで率先して分別している者がごみの排出量削減が実現していないと思ひ込み、次回は分別をしないかもしれない。市としては国が掲げた目標設定を達成しなくてはならないが、市民に寄り添った目標設定に見直ししてもよいのではないか。
事務局	目標設定については、国、県の指針に沿っての目標設定となっている。今回の数値としては意欲的な数値として考えていたが、第8次計画策定の際は内容を精査して目標を設定していきたい。
<b>議題（3）その他について</b>	
事務局より、環境フォーラムで開催するフードドライブについて説明。 災害廃棄物協定について説明。 次回以降の廃棄物対策審議会の日程を伝達。	
質疑なし。	
議長	最後に委員の皆さんから何かあるか。

委員	紙おむつの消費量は年々増加しているが、国から「使用済み紙おむつの再生利用等に関するガイドライン」が示されている。一部の自治体では使用済み紙おむつを回収し、リサイクルをおこなっているが、紙おむつの再生利用について、川口市ではどのように考えているのか。
事務局	家庭で使用された紙おむつは、ほとんどの市区町村が可燃物として収集して焼却処理をしている。紙おむつの再生利用は、いくつかの市町村で取り組んでいるが、本市では分別回収の手法や保管場所の確保、再生処理にかかる費用等の課題もあり、現状実施については難しいと考えている。今後においては、他自治体の取組事例などを参考にしながら調査研究をしていきたい。
議長	みなさまから貴重な意見を賜りましてありがとうございました。それでは、以上で本日の議事は全て終了いたしました。円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。以上をもちまして令和4年度第2回川口市廃棄物対策審議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。
閉会 (14:40)	
<p>会議の内容については、以上のとおりです。</p> <p>令和4年12月15日</p> <p>川口市廃棄物対策審議会議長 ..... 稲川 和成 .....</p> <p>川口市廃棄物対策審議会委員 ..... 笹原 文雄 .....</p>	